

6月19日（月）

おはようございます。

昨日の読売新聞の記事の一つに、天皇陛下のことが書いてありました。1992年に中国に行かれたときの話で、天安門事件のあとで、民主化を求める人たちがたくさん死んだり、逮捕されたりしたので、各国が中国に距離をおいた頃です。その時に中国政府は天皇陛下にきてもらいたいと要請があった。本当のところそれは政治に陛下を利用しようとしたのです。

政府の歓迎は別にして、中国民衆の熱というのは実は全然なかった。それでも、沿道に中国人の民衆の列がたくさん並んだら、最低、時速30キロで走ることに決まっていますが、陛下はとにかくゆっくり走ってくれるようにおっしゃって、時速8キロで走り、窓を開けてくれとおっしゃった。領事官は何かあったらどうしようかと大変心配したと書いてあった。結局無事に過ぎた。さまざまな式典や迎賓館でもきっちり挨拶をされたりして、だんだん評判が評判をよんで、帰るときは、自発的に30万人の中国人が陛下を見送ったという。国家元首としてこれほど謙虚な人はいないとか、中国文化への造詣も深く敬意を表す方はいないとか、地方の新聞もさかんに書き立てたというのです。

この話は、天皇陛下が立派な方だからすごい、というのはもちろんそうなのですが、それ以上に反感をもっていった国を、陛下の態度とお人柄によって、好意あるものに変えることができたということのすばらしさなのです。私は、この話は恐れ多いことだとは思いますが、われわれも学ばなくてはならないと思うのです。

反感をもっている国で、時速8キロで窓を開けて走られた陛下の行いというのは、もちろん自然に内側から出てきた謙虚なお人柄からなる行為だったのだと思うのですが、われわれもこのように自分を磨いていくことが大切なことであると思うのです。

いつもいいますが、21世紀は情報化社会であり、ある人間がどういう人間であるかは赤裸々にわかってしまう社会です。そういう意味でまったくごまかしがきかない、本物だけが評価をされる社会でわれわれは生きるのです。敵意を持っている民衆が帰るときにはみな手振って見送ったというのも、日本の経済発展をもってでも、国の命令によってなされたわけでもなく、陛下が日頃から律していらっしゃる謙虚なお人柄によってなしえたことなのです。ですからわたしたちもそれを学ばなくてはならないと思うのです。

最後の武器は自分の「人となり」つまり人柄です。それが人間としての総合力ということです。自分を立派な人間に育てていくとい

うことがとても大切なことだなどこの記事を読んで思いました。

日頃の勉強ももちろん大切だし、クラブで活躍もしてもらいたいと思いますが、それもすべて自分の人柄、人間としての人となりがあってこそその話です。そこが基礎です。日頃からどのように自分の人格を高めていくのかを心がけてもらいたいと思います。

学校長